



## 解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。折りの生活をもって前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

2019. 8月第609号

発行所 アシュラムセンター  
523-0894 近江八幡市中村町 567-2  
Tel 0748-33-4030  
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ  
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772  
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

六月の初めに、京都コンサートホールで行われた「メサイア」のコンサートに行ってきた。ニューヨークの日米合同教会(JAUC)のメンバーの一人が属している「オラトリオ・ソサエティ・オブ・ニューヨーク」との合同演奏会だった。ニューヨークから総勢50名あまりの合唱団が来日し、演奏すると聞き、随分前から心待ちにしていた。当日演奏会直前に彼女やご家族の方々と会うことができ、久々の素敵な時を過ごすことができた。

ニューヨークから名門Oratorio Society Of New Yorkが日本初となるコンサートを京都で開催し、「メサイア(救世主)」で祝福して頂けるとは、なんたる幸運でしょう。(後略) (京都ニューヨーク芸術文化教育交流実行委員長 代表二之湯 真士)

「ご存知の通り、ヘンデルの作曲した「メサイア」はイエスキリストの生涯を描いたオラトリオ(聖譚曲)だ。聖書を元に、特に旧約の預言書を

## 瞑想

行って、「天の国は近づいた」と

宣べ伝えなさい。

マタイ10:7

主幹牧師 榎本 恵

中心に、イエスの誕生から、十字架と復活までを、室内合唱団の演奏とソリスト、合唱で描き切った名曲だ。なかでも、そこで合唱される「ハレルヤ」を、知らないものはいないのではないか。「全能の神が統治されるこの世の王国はなった、われらの主とそのキリストの王国に。そして彼が永遠の永遠まで統治する。王の王、主の主よ」この歌詞は、黙示録(19:6、11:15、19:16)の言葉が使われている。

「行って、「天の国は近づいた」と宣べ伝えなさい。」(マタイ10:7)主は弟子たちを任命し派遣する時、こう命じられた。天の国が近づくと、神の支配が到来するという意味である。主ご自身が、その宣教の開始の言葉として語った宣言を、弟子たちにも語るようにと命じ、今や、それは時を超え、場所を超え、私たち一人一人にも迫ってくる。時が良くて、悪くて、この世の支配者たちが権勢を振るい、世の中が右傾化し、人々が皆この世の権力へとなびいて行くときも、真の支配者はこの王の王、主の主にならなないと「天の国は近づいた」と宣べ伝えよと、主は私たちに命じられる。堂々と、恐れることなく、勇気を持って。恒例のハレルヤコーラスが始まった。会場を埋め尽くした聴衆全員が立ち上がり、合唱団と共に高らかに歌い始める。「全能の神が統治されるこの世の王国はなった、われらの主とそのキリストの王国に。そして彼が永遠の永遠まで統治する。王の王、主の主よ」と。それはもう圧巻であった。

友よ、全ての口がうちそらい、主を誉め歌おうではないか。永遠の王は、ただお一人である。その支配する時は近づいたと。この令和の国で、堂々と歌おうではないか。

## 第27回 盛岡秋田アシュラム

### 主題「主イエスが共にいて下さる」



角谷 晋次

アシュラムセンターのご支援を頂きまして、盛岡秋田アシュラムは今年27回目を開催できました。開催日程は、5月2日(木)～4日(土)の3日間でした。今回も榎本恵先生を派遣下さいまして、少人数でしたが充実したアシュラムを開催できました。



盛岡朝拝会との合同礼拝参加者

2011年3月の東日本大震災の日以来、アシュラムセンターを通して全国の方々が東北の復興にご支援を賜りまして、深く感謝しております。

今回の主題は「主イエスが共にいて下さる」でした。開会礼拝で榎本牧師は、主イエスが父なる神様の御元へ帰られるとき弟子

たちへ「わたしは世の終わりで、いつもあなたがたと共にいる」ことを約束されたことと強調されました。榎本先生は、「綱わたりをしている時は、下を見れば落ちます。必ず前の一点、主を見て信仰の一点で進まなくてはなりません。」と励まして下さいました。

4回の静聴の時間には、4つの福音書の最後の章、主イエスの復活の聖書を読

み、分かち合いを致しました。充実したファミリーでした。私たちのアシュラムは、未だ途上国です。3日間の参加者は6名でした。アシュラムの普及のため部分参加を奨励しています。2日目の朝は、盛岡朝拝会と合同で祈り会をもっていきます。これらの参加者を入れて部分参加者は9名でした。

私たちのアシュラム顧問の鶴丹谷三千代牧師は、天国の細川泰子先生のご遺志を引き継いで、奥羽の地でのアシュラムを祈り継いでおられます。来年の第28回アシュラムは、2020年5月4日(月)～6日(水)の3日間です。私たちは、今から祈りをもって準備しております。(盛岡仙北町教会)

## 第39回 関東青年アシュラムに

参加して



溝口 勝幸  
十字架の主、復活の主に栄光がありますように。主の御名を賛美申し上げます。

早いもので、第33回から奉仕者として参加させて頂いた関東青年アシュラムも、第39回で7年目となりました。その間、多くの恵みを頂いて参りました。今回もメッセージの備えから、開会礼拝、静聴、恵みの分か

ち合い、充滿の時に至るまで、浅学非才な私に對して主は全て導いて下さり、みことばの主の臨在を受ける恵みの時となりました。

今回の愛聴(静聴)箇所は、テモテへの手紙第一でありました。テモテの手紙と言えど何方もご存知のように信仰者として教会生活をどのように歩むべきかを教えている手紙であります。今回、愛聴していくと、混迷な今の世を信仰者としてどのように生きるべきか、「こんなにも平易に教えて下さっている手紙であつたのか!」ということに心開かれ、感謝なアシュラムとなりました。

また、いつものことでありますが、いかに愚かで高慢なものであるか示される時ともなりました。このような私にも惜しむことなく、みことばの恵みを説き明かして下さる、愛のイエス様を心にお迎える喜びの時とな

ご献金者  
敬称略  
5月分  
(イースター・誕生感謝会)  
金山 良雄  
伊達美奈子  
榎本 和子  
第27回盛岡秋田  
アシュラム

鶴丹谷三千代  
後宮 松代  
松村 玲子  
中谷 哲造  
チャーム  
コンソート  
(池田)

チャームの会  
山岡 義明  
沖田 朝子  
越智 千歳  
香川 孝子  
上柿 京子  
佐賀 昭子  
正岡リツコ  
吉田恵美子  
白石美恵子  
原 香澄  
森山 直子  
常任運営委員会  
足立タツ子  
村瀬 俊夫  
(4月分含む)  
野口 洋子  
福岡聖書教室  
杉山 武文  
杉山 ミユキ  
伊野 広子  
広野祈りの家  
猪瀬 和子  
山田 秀穂  
山田 恵子  
金田一世美子  
カフエーいらば  
聖書入門講座  
大山 悠子  
新 千重子  
ちいば牧師  
記念チャペル

夕礼拝  
澄子 愛子  
持田 林  
阪神 アシュラム  
大阪聖書教室  
脇 萬里子  
河村 琢郎  
榎本 恵子  
榎本 康子  
石田 哲夫  
三浦綾子 読書会



札幌一日アシラムに  
6月4日に、第9回  
竹田 栄子

りました。  
ご参加下さった方々  
の朝ごとのレビの時  
が、愛のイエス様を心  
にお迎えする喜びの時

## 札幌一日アシラムに

### 参加して

となることを願ってい  
ます。

「感謝」栄光在主  
(プリマスブラザレン  
大府キリスト集会)

参加させて頂きまし  
た。主に感謝します。  
榎本恵先生の開会礼  
拝は、主題聖句「親切  
な言葉は蜜のひたた  
り、魂に甘く、骨を癒  
す」箴言16章24節の御  
言葉をもってメッセー  
ジをいただきました。  
大事な人間関係にお  
いて、自分から出る言  
葉が、どれほど大切な  
ことを教えられました。日  
常生活の中で、何気な  
く語る言葉一つ一つ  
に、主を意識していな  
いと、親切な言葉では  
なく、傷つけてしまう  
事を知りました。この  
思いをもつて、ファミ  
リィ6のメンバーの方  
々とプログラムに沿  
って箴言16章全体か  
ら、『静聴の時』と「恵

みの分かち合い」に入  
りました。

私が、日々クリス  
チャンとして歩ませて  
頂いている中で、納得  
がいかないこと、悩む  
こと、色々あります  
が、16章4節「主はみ  
旨に沿ってすべてのこ  
とをされる。逆らうも  
のを、災いの日のた  
めに造られる」の御言  
葉に触れたときに、神  
様が私の全ての中に存  
在して導いてくださっ  
ていたことを知り、心  
から主に感謝しまし  
た。  
そして、教派を超え  
て様々な教会の方々  
を、神の家族として愛  
しく感じた大切な日で  
あり、祈りの中で、一  
人ひとりが大切な仲間  
として祈り合えたこと  
に感謝しました。ファミ  
リィ6のメンバーの方  
々と、この一日を通  
して教えられたこと  
は、自分の教会での信  
仰生活が豊かなものに  
されていくと思いまし  
た。  
(日本基督教団月寒教会)



## 第19回 愛知一日アシラムに

### 参加して

村上 光代  
ハレルヤ 先日、一  
日アシラムに参加で  
きましたことを感謝！  
です。19回には頼りに  
している姉が不参加と  
のことで、私も断念し  
ておりましたが、ア  
シラムの前日に、17

回でファミリィになっ  
た兄友に参加予定か尋  
ねてみたところ、今か  
らでも参加するように  
勧められて夜の7時頃  
になってからやっと事  
務局長の溝口兄に電話  
で参加の意志を伝えま  
した。とっても急だっ  
たのですが溝口兄の  
計らいでお弁当を私  
に譲って下さり代わ  
りに溝口兄が手製の  
おにぎりなどを食し  
ておられました。直  
前のためプリントな  
ども刷り直されたこ  
とでしように、大変  
恐縮します。溝口兄  
のご労に感謝！で  
す。大門牧師先生と  
同じファミリィにな  
れた事も主の最善が  
成ったのだと改め  
て思わされました。  
五人も与えられた  
ファミリィの祈りに  
も支えられて心強く  
主の海原へ漕ぎ出し  
ていけるでしょう。

センター 聖書教室  
夏目 淑子  
横山 宜和  
吉田すみあ 静岡聖書教室  
安仲 萌子  
池谷 治朗  
池谷 寿子  
山下百合子 札子  
吉谷 栄一  
高橋 栄一  
(愛知一日  
アシラム)  
東京聖書教室  
無名氏 義人  
山崎 義人  
鹿屋  
キリスト教会  
加々美 要  
李 非珍  
榎本 光太  
明石シオン  
無名氏  
堺大浜  
キリスト教会  
66口  
¥886,311

ヨセフ基金  
(義援金)  
吉田すみあ  
ちいしば  
アッちゃん・  
シユラム君  
2口

新修道場  
のために  
たびんちゅう牧師  
1口

合計  
70口  
¥893,311

暑いご献金、  
ご献品、お祈り、  
お便り、電話  
メッセージ、  
そして、共に  
アシラム！  
感謝いたします

## 東北軽米伝道の証し

東山 道晴  
(三戸伝道所)

今日は三戸伝道所のことを少しご紹介したいと思います。現在会員6名。決して多くはありません。はっきり言えばごくごく小さな群れです。今、わたしたちは神の家族の一人ひとりであるということを大事にしています。これは始めてから1年以上経つのですが、毎主日の礼拝後、必ず主の食卓を持っている。主の食卓の交代りです。小さな群れが神の家族として主の食卓、御国の先取りとして主を中心とした食事の時を毎主日礼拝後に持っています。三戸伝道所は小さいという言葉あまり使いません。神の家族一人ひとりと言います。たとえ2人でも、10人でも、あえて、1000人でも、神の家族一人ひとりの祈りと交わりを続けていきたい。主の食卓ではパン裂きをし、讃美歌21の81番を賛美し、食事をし、最後にそれぞれお祈りをして終わります。

もう一つ、三戸伝道所では毎月第三主の日を「特別伝道礼拝」と位置付けています。神の家族の集う群れは人数が少なくても主からいただいた恵みがどれほど大きいかを素直に表したい。そのために月一回第三の主日礼拝を「特別伝道礼拝」と名付けて持つことにいたしました。高名な牧師をお呼びすることはいたしません。伝道所の東山牧師が一生懸命メッセージを語り

ます。2019年の4月の特別伝道礼拝はちょうどイースターにあたり、「イースター特別伝道礼拝」となりまして、案内チラシを1000枚町内の新聞に折り込みました。イースター当日、何と久しぶりに新来会者が一人与えられたのです。普段、10人弱の出席がその日は子どもも入れて16人でした。新来の方は新聞の折り込みを見て来たというのです。全く初めてで、どういう話をするのか聞いてみたいというのです。1000枚に対して1名であろうが、50枚に対して1名であろうが、1名は1名です。その後毎週礼拝に來ています。主イエスを求める人の姿をその人に重ねてみるのです。主イエスはわたしたちの知らないところで招いておられる。あらためて、1人を大切にされる主イエスを間近に覚えました。2000年余り前、主イエスは「迷い出た羊」のたとえを心込めて、一生懸命話してくださいました。一人の一匹のその話がどれほどいまの時代、乾いた大地に水がしみ込むように人の心に届いているのでしょうか。もしかしたら一人の存在が軽んじられる社会。必要としながらも聞かない(聞けない)現代社会。そのような中にあって三戸伝道所は小さい者と共に歩まれる主を信じ、主の食卓を囲み御国を来らせ給えと祈る神の家族として歩んでまいります。

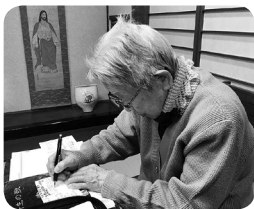
皆さんのためにお祈りしております。  
ハレルヤ!



(軽米桜山みくに集会案内チラシのイラスト)

## 誕生日カードを感謝して

誕生日カードの御礼、感謝です。恵みの分かち合いをお願い、時々ご紹介させて下さい。



祈りをこめて、誕生日カードにメッセージを書く和子母

札幌アシュラムの友  
吉田高明兄より  
2月6日朝10:30今、しんしんと綿のような雪が降っています。まさに冬本番です。札幌では、「札幌雪まつり」が行なわれています。

いつも、早天祈祷会では、アシュラムメンバーのために祈って下さり、心より感謝いたします。2月4日は私のために祈って下さり、励まされています。毎年、誕生日カードを楽しみにしています。祈祷会のメンバーの一言が温かく、雪の寒さを暖めてくれているようです。昨日「ミニアシュラム」では年頭アシュラムに行かれた吉田すみ糸姉より「主幹牧師の2019年ビジョン」をいただき、全員で順番に読み、心を一つにいたしました。神様の働きが祝福の中に進められますように、心よりお祈りしています。カードのお礼をここに送らせていただきます。



## 主幹牧師の2019年ビジョン (4)

さていよいよ、2019年の主幹牧師のビジョンも、最後となりました。今年から始まる2つの新しいアシュラムを紹介し、今回のビジョンを閉じたいと思います。

ひとつ目は、センター主催の「四国アシュラム」です。今回は特に、このアシュラムを、会場三島真光教会の元牧師金田福一先生の記念アシュラムとして第一回目をしています。四国は、もともと今治アシュラムとして、まさにアシュラム運動のメッカの地でありました。今も、愛媛や高知などでアシュラム集会が保たれておりますが、センターが主催となって、この四国の地にアシュラムのともしび掲げていきたいとの願いから、このアシュラムは生まれました。全国にはたくさんの大小のアシュラム集会がありますが、センター主催のものは、阪神アシュラム、日光オーリーブの里アシュラム、そして昨年引き継ぎました福岡アシュラムです。そこに続く4箇所目の地域アシュラムが四国アシュラムです。それまでのものが、既存の地域アシュラムを継承する形で始まったのですが、今回の「四国アシュラム」は、まさに一人の常任運営委員の長年にわたる祈りの中から生まれたものです。ですから、何人ぐらいの方が集まるのか、またどんな内容になるのか、まさに手探り状態ではありますが、必ず主はこの計画を用い、ご自身の栄光をお表しになると信じています。どうか、お祈りください。

またもう一つ、「茨城アシュラム」が始まります(3月15日開催済)。これは、今アシュラム誌で「みことば」(2018年4月～2019年3月



四国一日アシュラムにて、和子母・正岡姉、懐かしい友との再会

掲載)の欄を担当して下さっています下妻シャロームキリスト教会の山本悦子牧師が、中心となり行ってくさいです。もともと当地には、常磐アシュラムという熱心なアシュラムがありました。

それが発展的解消となり「日光オーリーブの里アシュラム」になりました。しかし、なかなか日光まで足を伸ばせない方、また泊りがけのアシュラムには参加できない方のために、山本先生が中心となり、教会アシュラムを行います。アシュラムの火が所々で消えていくお知らせを聞き、時として心を痛めることがあります。しかし、主は決して「傷ついた葦を折らず、くすぶる灯心を消さない」(マタイ12:20)方です。どうか、この2つの新しいアシュラムを覚え、お祈りください。

最後になりましたが、昨年からはじめました「学生のための修道場アシュラム」そして「新修道場計画」についても、引き続きお祈りいただけましたら感謝です。いずれにせよ、今年「亥年」は、干支の最後であり、何もかもが深く閉ざされてしまうという意味だそうですが、私たちクリスチャンは、その死んだように見える世界の中で、確かに命の息を吹き返す胎動を感じ取っていくのです。神様は、雲の中に約束の虹を置かれます。雲の中の虹を見出していくものとなりましょう。

どうか、今年もまた、主に従い、主に守られ、主の大きな栄光の証人となるよう、アシュラムセンターが用いられるよう覚えお祈りください。

ありがとうございました。



祈りこめられ開催された第一回 茨城アシュラム 3月15日(集合写真) 四国一日アシュラム6月15日。新しい出発とともに第2回への備えの祈りも。

湯野 静子姉(97歳)

アシュラムセンター創設時より保郎師と早天祈禱会に。誕生日カード宛名書きご奉仕。今は北海道で尚もアシュラムの日々。「国際正義・平和アシュラムにてお会いしましょう。」



10月1日の「大地に響け、平和の調べ」コンサートのステキなチラシが出来上がった。ブラジル、台湾、日本、アイヌ、アメリカ。それぞれの文化伝統歴史は違うけれども、平和を求める心は尊く、清いものだと思っている。アシュラム運動が、「み言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけに終わる者になつてはいけません」(ヤコブ1:22)の言葉に応答する者となつていきたい。皆様のご参加を、そして祈りに裏打ちされたお支えをお願いいたします。共に主の平和を求めていきましょう。(恵)

あとがき

8月の聖書教室など

【主な問い合わせ先】  
0748-33-4030  
アシュラムセンター

|       |                                |                        |
|-------|--------------------------------|------------------------|
| 1(木)  | 新さん祈りの家(滋賀県湖南市 AM10:00)        |                        |
| 6(火)  | 札幌ミニアシュラム                      | 011-561-7951<br>吉田すみゑ姉 |
| 12(月) | 福岡聖書教室<br>(博多クリオコートホテル PM1:30) | 092-607-8251<br>樋口栄子姉  |
| 17(土) | 広野祈りの家<br>(兵庫県三木市志染 PM1:00)    | 0794-85-1147<br>猪瀬和子姉  |

8月のアシュラムなど

|                 |                         |                       |
|-----------------|-------------------------|-----------------------|
| 15(木)<br>17(土)  | 第39回 関西青年アシュラム<br>加々美要師 | 072-250-5224<br>小林牧人兄 |
| 19(月)<br>21(水)  | 第29回 軽井沢アシュラム<br>大門義和師  | 03-3607-9063<br>川口博司兄 |
| 22(木)<br>23(金)  | 第45回 松山アシュラム<br>寺尾雅生師   | 089-983-1164<br>寺尾博子姉 |
| 31(土)<br>9/2(月) | JAUIC日米合同教会修養会inニューヨーク  |                       |

9月のアシュラム予定

|                  |                  |  |
|------------------|------------------|--|
| 9(月)<br>11(火)    | 第57回 関東アシュラム     |  |
| 15(日)<br>16(月)   | 第54回 九州アシュラム     |  |
| 20(金)<br>21(土)   | 新潟アシュラム          |  |
| 23(月)            | 福島浜通りアシュラム       |  |
| 30(月)<br>10/2(火) | 第16回 国際正義平和アシュラム |  |

2019年10月以降のアシュラム予定

|           |                    |
|-----------|--------------------|
| 10月7~8日   | 第43回 山陰アシュラム       |
| 10月9~10日  | 第7回 日光オーリーブの里アシュラム |
| 10月11~12日 | 第20回 愛知一泊アシュラム     |
| 10月18~19日 | 第24回 北陸・富山アシュラム    |
| 10月22日    | 第23回 埼玉一日アシュラム     |
| 11月14~15日 | 第43回 阪神アシュラム       |
| 11月19~21日 | 第44回 京浜アシュラム       |



三重ミニアシュラム・小林ご夫妻、  
水戸(御長女在)に移住される前に



家形姉宅訪問。お元気でアシュ  
ラム誌熟読の様子に感謝!



入院先から大阪聖書教室へ。麗しい角野  
母娘(嫁)のお姿に皆感動!主に感謝



♪初の幼児祝福式♪  
加藤庸子姉、恵師孫

みことば



元アシュラムセンター代表・常任運営委員長  
元日本キリスト教団甲西伝道所牧師  
後宮 俊夫 師(2018.12.23召天 96歳)

聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受け…

使徒1:8

ところが、人々の論議はその聖霊とは何ぞやと言うことになる。聖霊が何であるかわかったならば、それを求めようと言うのであるか。その為かどうかは知らないが、近頃聖霊論は甚だ盛んなようである。然し、主イエスは聖霊について、あれこれの御説明はなさらなかった。聖霊の実や、業については語り給うたが、聖霊とは何ぞやとはお教えにならなかった。論議は止めて、わたしたちは聖霊を求めて行けばよいのである。それは結果に於て知ることができる。主は「天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さらないことがあるか(ルカ11:13)」と約束して下さい。聖霊を受けるためには、ただ祈り求めたらいののである。

聖霊降臨日の前、弟子たちは、みな心を合わせて、ひたすら祈をしていた(使徒1:14)。屋上の間に集って、心を合わせて祈っていたことは、わたしたちに祈祷会の必要を示している。一人で祈る方が心を静めてしっかりと祈れると言う人がよくある。そのようにも思われる。然し、わたしたちは一人で祈る時、その祈りはしばしば中断しがちである。または自分中心のものになり易い。わたしたちはまことに弱くして、そんなに熱心には祈れないものである。ゲッセマニに於て、ペテロ、ヤコブ、ヨハネの3人でさえ、主の熱棒をそばに眠っていたのである。これがわたしたちの実態なのである。このような私たちが、熱心に祈り求めるためには、共に心を合わせて祈ることが必要なのである。その時、わたしたちの祈り心は励まされるし自分の祈りの姿勢を正されるのである。各自の祈りがそのように高められて行くだけでなく、そこに合わせられる祈が強められるのである。祈祷会には心掛けて出席しなければならぬ。そして、他の人の祈りを批判的に聞くのではなく、心を合わせて共に祈っていくことが大切である。祈祷会がそのようなものとなった時、出席している人々に聖霊が下るであろう。丁度五旬説の日にそうであったように。

もう一つは、ひたすら祈をすることである。ひたすらとは一途に、専一にと言うことである。あれもこれもうちの一つであるのではなく、それをもつぱらと言うのである。祈りも必要なのだからやり方ではなく、祈りこそがと言ったやり方ではなくてはならない自分自身をかえりみて、もつぱら祈と言うことがない。ひたすら祈りができていないのである。後に12弟子たちが、ステパノ以下7人の信仰と聖霊とに満ちた人を選び出し、食卓の用に当って貰うことにした時、使徒たちは「わたしたちは、もつぱら祈と御言のご用に当たることにしよう」と言っているが、このような祈りへの打ち込みが足りないことをつくづく感じている。牧師がこのようであるから、信徒は尚更ひたすら祈と言った姿勢がないのであろうが、自分ができていないだけなのに、共に励まし合ってひたすら祈ることを提唱しなければならぬ。

かくして、文字通り、みな共に、心を合わせて、ひたすら祈をするならば、聖霊にみたまされて、それぞれの遣わされた所にあつて、主イエス・キリストの証人となることができる。お互いに、このことを第一にひたすら励んで行くのではないか。

1963年出版「ガリラヤ」(日本キリスト教団世光教会「祈りの集い」の機関紙)より